

昇天、第二幕の始まり**ルカ24:44~53 / 李正雨師**

今日は昇天主日です。私たちの主であるイエス様が神様の御心に従い、この世でのことを成し遂げられ、天に上られたことを記念する日です。多くのクリスチャンにとって、イエス様の死と復活は大きな関心事であり、大事に思われています。でも、主の昇天は、イエス様の死と復活ほど重要には思われていないと思います。特にプロテスタントの方では、昇天の意味を知っている人は多くないようです。しかし、イエス様の昇天には大きな意味があります。私たちが告白している使徒信条やニケア信条でも、主の死と復活だけでなく、昇天についての信仰告白もあります。使徒信条に書いてあるイエス様の昇天の部分です。「三日目に死人のうちから復活し、天に上られました。そして全能の父である神の右に座し、そこから来て、生きている人と死んだ人とを裁かれます。」

イエス様の死と復活だけでなく、昇天についても書いてありますよね。そしてこの昇天ですべてが終わるのではなく、昇天によってもたらされることも書いてあります。「全能の父である神の右に座し」と「生きている人と死んだ人とを裁かれます」です。昇天されたイエス様がどんな方なのか、どんなことをなさるのかを私たちは告白しているのです。ニケア信条にも同じ内容が書かれています。ルターはこれについてこう述べています。「イエス様は昇天され、父の右に座し、支配権を引き渡されました。悪魔と悪のすべての力は、最後の日に至るのです。その時、主はご自分の足の下に悪の世界と悪魔と罪を、私たちから完全に分けられ、分離されるのです（大教理問答、信条）。」これは、イエス様の昇天が私たちにとってどんな意味を持っているかを確かに教えてくれることだと思います。イエス様の救いだけではなく、統治と裁きを告白して記念する日。この日が昇天主日なのです。

昇天主日である今日、福音書の言葉は、ルカによる福音書の最後の言葉です。この言葉は、イエス様が昇天される前に弟子たちになさったことを教えています。イエス様は次の3つのことを弟子たちのためになさいました。最初に、聖書を悟らせるために弟子たちの心の目を開きました。第二に、弟子たちがイエス様の証人になることを言われました。第三に、聖霊が来られることを約束してくださいました。イエス様は、この3つを告げられて、昇天されました。そして、この御言葉を最後にして、イエス様の話ではなく弟子たちの話が繰り広げられます。イエス様が最後になさったこの3つのことが中心となり、弟子たちを導いてくれたのです。イエス様の昇天は、終幕ではなく第二幕を知らせることであったのです。今日の福音書44節を見てみましょう。「イエスは言われた。『わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである。』」

イエス様は、ご自分についてのモーセの律法と預言者の書と詩篇の事柄は実現すると語られました。この言葉は、旧約聖書のメシアについての預言がご自分によって成し遂げられ、また次第に成し遂げられていくことを語られているのです。私たちの考えでは、預言を実現することは、そんなに重要ではないように見えることもあると思います。私たちの生活と直接関わっていないので、さらにそう考えることもあります。しかし、この預言を約束の観点から見ると、預言の実現は、ユダヤ人だけでなく私たちにとっても重要なことになります。なぜなら、約束は信頼に基づいているからです。私たちにも、十字架による救いの約束があります。そしてこの約束は、信仰を通して私たちの生活の中で実現しなければならないことです。そうでなければ、私たちの信仰は無駄なものになるでしょう。ユダヤ人にとって預言の実現というものも、これと同じでした。神様がなさった約束として、必ず実現しなければならないのが預言でした。ですから、イエス様はご自分を通してメシアの預言は実現されると言われました。

しかし、イエス様とユダヤ人たちの間では、この預言の実現についての考え方が違いました。皆様もこのことについてはよくご存知だと思います。ユダヤ人はどんなメシアを望み、イエス様はどんなメシアとしてこの世に来られたかを私たちは分かっています。しかし、当時の弟子たちは、メシアについての自分たちの考え方を捨てることができなかつたと思います。それで、イエス様は弟子たちに聖書を悟らせませす。45節の

言葉です。「そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、」ユダヤ人が持っているメシア思想を捨て、イエス様の教えに従うこと。これが弟子たちに与えられた新しい思想、元のメシア思想でした。そして弟子たちは、このようなメシア思想を伝える証人として(48節)イエス様に召されたのです。

これを弟子たちに悟らせたイエス様は、ご自分の苦難と死と復活をおっしゃいます(46節)。これは、メシアがこの世で何をなさったかを示しているのです。イエス様は力のあるメシア、武力をふるうメシアではありませんでした。救いのためにご自分を犠牲にしたメシアであり、罪の問題を解決したメシアでした。イエス様は、これが、つまりご自分による罪の赦しと悔い改めが、エルサレムから始められ、あらゆる国の人々に宣べ伝えられると言われます。人々の欲望によるメシアではなく、神様の御心によるメシアを宣べ伝えるべきだということです。そして、このことは悔い改めを伴うのです。47節の言葉です。「また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に 宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、」

今日の福音書であるルカによる福音書の最初の章には「マリアの賛歌」が書かれています。このマリアの賛歌の主なテーマは「公平な世界」です。それでマリアは、身分の低い自分がメシアを身ごもったのは、神様の恵みだと賛美します。これはメシアが私たちのところに来られた意味を明らかに示しています。しかし、世の中の人々は、自分たちだけのためのメシアを望んでいました。自分の平和と安寧のために代わりに戦ってくれるメシア、自分たちのために天の福を与えるメシアを待っていました。それで、イエス様もユダヤ人たちから排斥され、イエス様の弟子でさえも、イエス様が言われたメシアのことを理解していなかったのです。そして、このようなことは、神様の御前で罪になるしかないと思います。隣人のためのもの、愛と平和のためのもの、神様の御心にふさわしいものが一つもないからです。ですから、イエス様は罪の赦しを得させる悔い改めと救いがエルサレムから始められ、あらゆる国の人々に宣べ伝えられると言われます。この世が自分の過ちを悟り、悔い改めることができるように、メシアの福音にふさわしい者になることができるように、悔い改めを伴う救いが宣べ伝えられなければならないのです。

そして、弟子たちはこれを伝える証人となるのです。人々が願っているメシアではなく、イエス様が直接見せてくださったメシアを伝えるのです。そのために、イエス様は聖霊をお遣わしになることを約束されます。神様の御心を人々に正しく伝えることができるように、弟子たちがイエス様の御言葉を覚えることができるように、聖霊が弟子たちと共におられるのです。聖霊の助けによって、人の欲望と栄誉に繋がるメシアではなく、愛と平和と犠牲のメシアが伝えられるのです。それで、イエス様は弟子たちを連れて、エルサレムから離れてベタニヤの辺りに行かれます。50節の言葉です。「イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。」イエス様が弟子たちを連れてベタニアに行かれたことには、いくつかの意味があると思いますが、私の考えでは、これが出エジプトを象徴していることだと思います。ユダヤ人たちがエジプトから出たように、イエス様の福音と弟子たちは、エルサレムから出ていくのです。神様の言葉は、もはや一つの民族に閉じ込められておらず、皆の神様の言葉になるのです。モーセが新しい場所に民を導いたように、メシアも新しい場所に弟子たちを導き、そこで福音が花咲くのです。これがイエス様がエルサレムではなく、ベタニアの辺りまで弟子たちを連れて行かれた理由だと思います。そして、そこでイエス様は昇天されました。

ところが、弟子たちの反応が意外です。イエス様と別れているのに、全く悲しがりません。むしろ、大喜びでエルサレムに戻ります。イエス様の昇天が最後ではなく、始まりであることが分かったからだと思います。イエス様の話ではなく弟子たちの話。福音の第二幕が始まったのです。そして、この話は、今の私たちにつながってきています。私たちがイエス様以後の話を書いているのです。私たちを通して福音が伝わり、実が結ばれ、教会が守られ、後代に信仰が続いているのです。この話は終わることはありません。皆様の周りを御覧ください。ご自分一人ではなく、多くの人々が共にいます。一つの民族ではなく、いろいろな民族が共にいます。そして聖霊が私たちと共におられます。これがイエス様の昇天が私たちに教えてくれるメッセージなのです。この素晴らしい昇天のメッセージがこの場に集まった皆様と共にいつまでもありますように。聖霊の導きが皆様と共にありますように、主の御名によって祈ります。アーメン